

『放課後子ども教室』



～学習アドバイザー指導の手引き～



1 学習の習慣化や基礎学力の定着を図る『放課後子ども教室』

現在、県内で『放課後子ども教室』が約160教室あり、学習や交流、体験、遊びなど、様々な形態で子どもの安全・安心な活動拠点（居場所）となっております。

中でも、学習アドバイザーと呼ばれる方を中心に、学校の図書室等を利用し、宿題や復習、読書に親しむ等、学習の習慣化や、基礎学力の定着を図っており、県としても支援しているところです。

この資料は、子どもの確かな学びをすすめる目的で、学習アドバイザーの方を対象に作成した、子どものやる気を引き出すための「手引き」です。

ご一読していただき、今後の参考にさせていただければ幸いです。

2 学習活動を取り入れた『放課後子ども教室』のよさ

○正しい姿勢で、ていねいにきちんと文字を書くことができるようになります。

【低学年】

○連絡帳（明日の予定）を見て、宿題や復習、やらなければいけないことを順番を決めて行うことができるようになります。【低～高学年】

○めあてを決め、ひとりで学習に取り組み、自分で見届け（答え合わせ等）ができるようになります。【低～高学年】

○苦手な学習も投げ出さず、根気よく取り組むことができるようになります。

【低～高学年】

○やり切ることのできなかつた学習内容を家庭で行うことができるようになります。【低～高学年】

○図書室等の本を活用し、調べ学習をすることができるようになります。

【中・高学年】

○図書室等の本をすすんで読むことができるようになります。【全学年】

3 学習アドバイザーのおもな役割

学習アドバイザーは、子どもの様子に応じて、以下のような役割が考えられます。

- ・ていねいにきちんと文字を書くことができるように働きかけましょう。
- ・宿題や復習等、順番を決めて学習できるようにめあてづくりのアドバイスをしましょう。
- ・ひとりで学習に集中し見届けまでできるように確認してあげましょう。
- ・時間までにできなかつた学習内容を次の時に確認してあげましょう。
- ・どんな本を活用すると調べることができるか等についてアドバイスしてあげましょう。

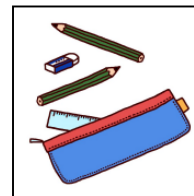
4 子どもの学習意欲を引き出すために

(1)小学生の特性を理解しましょう

小学生は、学年によって発達段階に大きな差があります。その特性を知って接することは重要なことです。ただし、発達には個人差があるので、子ども一人ひとりの様子を見て接するように心がけましょう。

<低学年>

- 多動で自己中心的、大人への依存心が強い。
- 発達の個人差が大きい（学習技能の個人差が大きい）。
- 基本的なしつけ（正しい学習姿勢や、ノートを使い方、えんぴつの持ち方等）に心がけ、できるだけ大人に頼らず、自分の力で取り組めるよう、その子なりの目あてをもたせ見守りながら支援しましょう。



<中学年>

- 同年齢を中心に集団で学習活動をするようになる。
- 自己主張が強くなる反面、仲間に影響を受けるようになる。
- 仲間と集中して取り組む自主学習の工夫をさせましょう。
- 苦手な教科の内容の克服に励むよう働きかけましょう。
- ひとりで学習するよさ（集中できる、はかどる等）に気づかせ、自信をもたせましょう。



<高学年>

- 学習内容を理解するまでの差が大きい。また、学習内容により得意、不得意がある。
- 思春期特有の心の動きがある（人前での評価や、人に見られること、失敗を気にする等）ので、個に応じた配慮をしてあげ、その子の学習方法を尊重し、必要に応じて支援しましょう。
- 何につまずいているのかをさぐり、その子に合った学習の支援をしましょう。
- ひとり学習ができる子には、宿題や苦手な教科を中心に取り組むよう働きかけましょう。



<参考文献：山口県教育委員会発行：子どもサポーターハンドブック>

(2)分かりやすい説明をしましょう

①言葉による説明

- ・話す内容は、順番をつけて分かりやすい言葉でゆっくり話しましょう。（低学年は、必ず分かりやすい言葉に置き換えて話をしましょう）
- ・「これ」「それ」等、多くの指示語をなるべく使わないようにしましょう。

②具体物による説明

- ・作業等で道具（コンパス、墨汁、絵の具、針と糸、パソコン等）を使う場合は、実際の使い方や気をつけることを示してあげましょう。

③印刷物による説明

- ・黒板や模造紙に作業手順などを書き、視覚的に確認できるようにしましょう。
- ・必要な情報を印刷して配布し、低学年の子どもにも分かるように漢字にふりがなをつけましょう。

5 子どもがやる気になる誉め方、納得する叱り方をしましょう

誰でも、がんばったことを認めてもらったり、誉めてもらったりすると、うれしいものです。また、本人が気づいていないよさなどを誉めてもらえるとうれしくなります。

**子どもと接することで、子ども一人ひとりのよさを見つけ、その子
なりの行為を認め、機会があるごとに繰り返し誉めてあげましょう。**

「今日は、とてもいねいに美しい文字を書いていましたね。正しい姿勢だったし、えんぴつの持ち方がよくなったからだね。」

「自分のめあてよりもいっぱい学習することができたね。集中して学習に取り組んだからだよ。明日もがんばってね。」

「苦手な計算問題をあきらめず粘り強く解いていたね。〇〇さんはがんばりやさんだね。何か困ったことがあれば相談してね。」



<ポイント>

- ☆「～がいいね。」だけでなく、よい姿の裏付けとなるよい部分を見つけて誉めましょう。
- ☆めあての評価と、次のやる気を促し、目標付けとなる言葉かけをしましょう。
- ☆子どもに寄り添う言葉かけをしましょう。

指導者からすると、子どもにやる気を促し、叱咤激励する言葉かけがありますが、相手を認めた言葉遣いに心がけたいものです。



<子どものやる気がなくなる話し方>

- × 「〇年生だからできるよね。」
- × 「～ができないと〇年生になれないよ。」





<子どものやる気を促す話し方>

- 🌸 「前は、～だったけど、今日はできるようになったね。次ももっとできるよ。」
- 🌸 「苦手な勉強もあきらめず取り組むことができるよね？〇〇くんのがんばる姿、とってもすてきだよ。」

反対に、いけないことをした場合は、毅然とした態度で叱りましょう。気を付けたいことは以下のとおりです。

- ◆感情にまかせて怒ることや人格を否定する言い方はやめましょう。
- ◆指導者によって叱り方に大きなちがいがあったり、子どもによって叱り方を変えたりしないようにしましょう。
- ◆その場で指導するのか、後で個別指導するのかは状況によって変わりますが、命の危険や、重大な事故、怪我につながる恐れのある行為については、すぐ指導しましょう。
- ◆いつも同じ児童同士がトラブルになったり、一部の児童に対して強い口調で注意したり、排除したりする等、気になる行為は、子どもに注意をした後、学校関係者や保護者と連絡を取り合いながら連携して対応しましょう。
- ◆叱った後は、その子の様子を見届け、努力している様子を認め誉めてあげましょう。

6 学習活動を取り入れた「放課後子ども教室」のすすめかた ＜中学年の場合＞

活動内容	子どもの姿	指導者の働きかけ
<p>1 学習アドバイザー（以下、先生）に挨拶します。</p> <p>2 先生に今日の学習のめあてを話します。</p>  <p>3 学習します。 ＜目安の学習時間＞ 低学年・・・20～30分 中学年・・・30分～50分 高学年・・・40分～60分</p> <p>4 机の上をきれいにして使ったものを片付けます。</p> <p>5 先生に反省を言って帰ります。（または全体で反省会をします）</p> 	<p>【挨拶】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇年〇組△△□□です。よろしくお願いします。 <p>【めあて決め】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、算数の宿題を済ませた後、自主勉強で計算ドリル「分数のわり算」の問題を解きます。 ・40分間集中してがんばりたい。時間があれば、読書をしたい。 ・友だちや先生を頼らずがんばりたい。 ・とめ、はね、はらいに気をつけて、ていねいに書きたい。 <p>【学習】</p> <p>【片付け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消しゴムのかすを捨てる。 ・椅子をもとにもどす。 <p>【反省、挨拶】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあてのとおりがんばることができました。 ・時間までにできなかったの、続きは家庭学習をします。ありがとうございました。 	<p>○出欠席の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんにちは。今日は何に取り組めますか。 ・宿題はありませんか。 ・問題は何分で解けそうですか。時間を決めて挑戦してみよう。 ・答え合わせをしたら先生に見せてね。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【参考】</p> <p>＜子どもをやる気にさせる言葉かけ＞</p> <p>～できるとうれいな</p> <p>～だからすばらしいな</p> <p>～だからすてきな</p> <p>～だからすごいな</p> <p style="text-align: right;">等</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・難しい問題も自分の力で解決できたね。よくがんばりました。次は～に挑戦してみよう。 ・ていねいに書けたね。次は「はね」に気をつけて書いてみましょう。 ・残りの学習はおうちの人に見てもらいましょう。 <p>○下校の確認</p>